

市議会だより



●活躍を称えて46個人10団体を表彰

スポーツで好成績を取めた方々に栄光賞や奨励賞などの各賞が授与されました。（男鹿市スポーツ賞授賞式）

～男鹿から東北に力を！～

◆3月定例会審議日程◆

2月27日	本会議（議案上程）
3月1日	本会議（一般質問）
2日	本会議（一般質問）
5日	本会議（議案質疑）
6日	予算特別委員会
7日	予算特別委員会
8日	常任委員会・分科会
9日	常任委員会・分科会
12日	常任委員会・分科会
16日	議会運営委員会 本会議（表決）

記事内容

3月定例会から	P 2～P 3
議案質疑	P 3
予算特別委員会	P 3
一般質問	P 4～P 6
常任委員会・陳情等	P 7
表決状況・編集後記	P 8

3月定例会

、負担増に懸念の声 保険料引き上げで活発な議論— 保険条例の一部改正

平成30年3月定例会は、2月27日に招集され、3月16日までの18日間の会期で開かれ、今定例会では、介護保険条例改正案や教育長任命案、平成30年度一般会計予算案及び各特別会計予算案など、40議案が市長から提案され、審議の結果、すべて可決、承認及び同意としました。また、最終日には議員9名から農業委員会に関する決議案が提案されましたが、起立採決の結果、可否同数となり議長裁決で否決となりました。

計からの繰入金を増やし、市民負担は抑えるべきと考えます。また、生活困窮者に対する減免事項の新設や市民税非課税世帯は年金からの特別徴収をやめ、減免申請をしやすくなる必要があると考えます。以上の理由により議案第10号及び第28号に反対します。

●介護保険条例の改正

介護保険料の引き上げについて、予算特別委員会及び所管である教育厚生委員会で活発な議論が行われました。議員からは「低所得者ほど所得に占める負担割合が大きく、「保険料は1円でも安くが市民の願い」等の意見が出され、最終日には反対討論がありました。

議案第10号及び第28号に対する反対討論
佐藤巳次郎議員

●農業委員会に関する決議案

農業委員会活動を補佐する「仮称・男鹿市農業委員会サポート委員」の設置を求める決議案が、議員9人の連名で提出されました。

●男鹿市複合観光施設「オガレ」について

施設建設は順調で、グラウンドオープンが7月1日として、様々な催し物を企画するとともに、オープン後も施設を活用した継続的な観光客に

「仮称・男鹿市農業委員会サポート委員」の設置を求める決議案が、議員9人の連名で提出されました。

「平成30年度予算」
一般会計予算 他10件
《主な内容》複合観光施設の整備
移住・定住の推進、健康寿命の延伸を重点施策として推進したほか、医療や介護など社会保険に要する経費や産業振興、公共交通の確保など市民生活に直結した事業に、必要に応じて緊急性を審査し、措置したもので、歳入歳出総額を155.6億7千万円とするものです。

「平成30年度予算」
一般会計予算 他10件
《主な内容》複合観光施設の整備
移住・定住の推進、健康寿命の延伸を重点施策として推進したほか、医療や介護など社会保険に要する経費や産業振興、公共交通の確保など市民生活に直結した事業に、必要に応じて緊急性を審査し、措置したもので、歳入歳出総額を155.6億7千万円とするものです。

「平成30年度予算」
一般会計予算 他10件
《主な内容》複合観光施設の整備
移住・定住の推進、健康寿命の延伸を重点施策として推進したほか、医療や介護など社会保険に要する経費や産業振興、公共交通の確保など市民生活に直結した事業に、必要に応じて緊急性を審査し、措置したもので、歳入歳出総額を155.6億7千万円とするものです。

介護保険料 —「1円でも安く！」 男鹿市介護

予算特別委員会

今定例会において、全議員で構成する予算特別委員会付託された各会計の平成29年度補正予算及び平成30年度当初予算について審査し、いずれも原案のとおり、可決・承認すべきものと決しました。委員会で質疑のあった中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

より、賑わいの創出に取り組みでいきます。
●平成30年度産米について
本市の生産の目安は、1万3千984トンで、29年産米の生産数量目標と比較して121トン増加する見込みです。米価安定のためには引き続き生産調整を行う必要があることから、農業者に協力をお願いしています。

本市の生産の目安は、1万3千984トンで、29年産米の生産数量目標と比較して121トン増加する見込みです。米価安定のためには引き続き生産調整を行う必要があることから、農業者に協力をお願いしています。

議案質疑

【特別職給与条例の改正】
質疑 教育長の給与を13万8千円減する背景や考え方を伺います。
答 市の財政が非常に厳しいこと。また次期教育長に予定している方は、今春、現在の職を定年退職される方という

現在の予算段階では、約9億2千250万円となっています。
質疑 男鹿駅移設に伴い、購入を前提に協議をしているJR用地について、どう活用する予定なのか。
答 市では、賑わい創出をこの空間としての整備を考えています。今後、具体的な活用計画を検討します。

質疑 新駅舎建設及び駅前広場の整備は、7月の複合観光施設オープンに間に合わないのか。
答 駅舎は複合観光施設と同時にオープンし、簡易的なロータリー等もJRで整備する予定ですが、その時点では、まだ駅前用地の活用計画は定まらないと思います。

地域公共交通網形成計画を策定する上で、目指す方向性について伺います。
答 生活バス路線としてだけでなく、観光や町づくりとも連携した交通網形成を目指します。無駄を省き、利用しやすい公共交通のあり方を検討します。

地域公共交通網形成計画を策定する上で、目指す方向性について伺います。
答 生活バス路線としてだけでなく、観光や町づくりとも連携した交通網形成を目指します。無駄を省き、利用しやすい公共交通のあり方を検討します。

観光事業者と意見交換
—観光議員連盟—
観光振興を促進するとともに、観光協会と相互交流を図ることを目的に設置している「男鹿市観光議員連盟」が、1月30日、観光事業者と意見交換会を実施しました。



二つの分科会で観光振興策を協議しました。

介護保険料の引き上げは取り下げし、思いやりの心を持って市民に優しい市政を目指すべきと考えますが、保険料を抑える方策について伺います。
答 介護保険料は、見込まれる介護給付費を3年間の計画期間として算出しています。世代間の公平性を保つため、公費で50%、40歳から64歳までの第2号被保険者が27%、

65歳以上の第1号被保険者が23%の割合で負担しています。保険料を下げるためには、介護給付費の上昇を抑えることが必要であり、健康づくり及び介護予防に力を入れた事業を進めていきたいと考えています。
質疑 複合観光施設整備の全体の予算額は、外構工事費等を含めるとどのくらいになるのか。

現在の予算段階では、約9億2千250万円となっています。
質疑 男鹿駅移設に伴い、購入を前提に協議をしているJR用地について、どう活用する予定なのか。
答 市では、賑わい創出をこの空間としての整備を考えています。今後、具体的な活用計画を検討します。

地域公共交通網形成計画を策定する上で、目指す方向性について伺います。
答 生活バス路線としてだけでなく、観光や町づくりとも連携した交通網形成を目指します。無駄を省き、利用しやすい公共交通のあり方を検討します。

観光事業者と意見交換
—観光議員連盟—
観光振興を促進するとともに、観光協会と相互交流を図ることを目的に設置している「男鹿市観光議員連盟」が、1月30日、観光事業者と意見交換会を実施しました。

二つの分科会で観光振興策を協議しました。



安田健次郎 議員

第4次行政改革大綱について

行政改革は単なる予算削減ではなく、最小の経費で最大の効果を上げ、効率的な行政運営とサービス向上を基本目標としていますが、実施計画を見るとサービス低下が目立ちます。①子育て応援米の支給停止の理由と今後の取組み。今までの財源で高校生までの医療費無料化も可能ではないか。②高齢者対策事業の見直しとは何か。③ごみの有料化推進と減量化対策とは整合性がないと思うがいかがか。④現在4力所の出張診療所の廃止の理由は何か。

①子育て応援米は子育て世帯から喜ばれていますが、様々な意見もあり、新年度からは県と連携し、保育料を収入640万円までの世帯の第2子を無料とし第3子以降に2分の1の助成をします。また、一時預かりや病後児保育等の利用に年1万5千円を上限として助成します。②高齢者対策事業や住宅福祉等普及事業は社会福祉協議会に、生きがいと健康つ

くり事業は老人クラブに、それぞれ委託しており、敬老会は実行委員会などと協議し業務委託から自主的な取り組みに変更していきます。③ごみ減量化の手法の一つとして有料化することで効果が出ており、推進すべきと考えています。④出張診療所の患者数は87人で新規の患者の増加は見込めないと考えています。

地産地消の推進について

本市の状況は全県で下から2番目で31.9%であり、条例化も含め、もっと積極的な取り組みが必要ではないか。

市では「地産地消推進店」として登録する制度を設け、現在64店舗が登録されており、男鹿産食材の販売等、地産地消の推進に協力をいただいています。

野外スポーツなどの屋内練習場設置について

市のスポーツの取り組みとして、駅伝などの取り組みは評価しますが、冬になると野球やサッカー、ラグビー、ゲートボール等の練習ができません。市民ホールは廃校等の改修による屋内練習場設置の音が強まっていますが、考えを伺います。

財政上困難です。



船木 正博 議員

八郎湖の水質について

八郎湖の水質は全国でもワーストとして常態化し、アオコが湖水とともに海に流れることによる漁業問題は一向に改善の兆しもなく、男鹿の観光と主軸産業の振興を阻んでいます。この難題についての考えを伺います。

市では下水道の整備や浄化槽設置に対する補助制度など、発生源対策や市民参加による八郎湖クリーンアップなど啓発事業に取り組んでいます。今後も、県、周辺市町村とともに八郎湖の水質保全対策に取り組めます。

オガールレに巨大ゴジラ像を

観光の目玉はまず話題性。視覚的にパッと目を引くアオコが必要で、男鹿にはゴジラ像があり、ゴジラは世界的にも有名で、日本を訪れる外国人にとってインパクトがあります。これと地理的姿勢も兼ねのけられ、世界から注目されるでしょう。オガールレに巨大立像が、口から



米谷 勝 議員

収納率向上について

市税収納率向上のためどのような対策を講じているのか。①収納率は平成27年度が98.84%、平成28年度は98.92%と向上しています。これは、新規の滞納の発生と滞納額の累積の防止が重要であることから、口座振替納税の促進や広報等による納期前納付の周知に加え、早い段階から滞納整理を進め、財産調査により法令に基づいた滞納処分執行に努めてきた成果によるものと捉えています。

財政調整基金について

平成30年度当初予算後の財政調整基金について伺います。①当初予算後の財政調整基金残高は、1億315万1千円となっていますが、今後、特別交付税など収入の確定による増収分を積立てする予定です。②財政調整基金は標準財政規模の15%程度が妥当と言われており、本市の場合15億円に相当し

ますが、その確保をどのようにして図る考えを伺います。③歳入では、ふるさと納税など、自主財源の確保に努め、歳出では、行政改革を推進し、公共施設の統廃合、補助金の見直しなどに取り組み、ごみ高の確保に努めます。

突発的な災害等が発生した場合の対応について

災害が発生した場合の対応については、国庫補助や市債の発行などにより対応していきます。

第7期男鹿市老人福祉計画・介護保険事業計画について

地域ニーズ調査結果等を踏まえた計画なのか伺います。①第7期計画では、団塊の世代が75歳以上の高齢者となる2025年問題を見据えた中長期的な視点に立ち、介護予防の充実、地域住民への普及啓発、総合相談支援、在宅医療・介護連携の推進、認知症施策の推進など、高齢者の自立支援・重度化防止に向けた取り組みを推進していきます。

保険料改定について、どのような考えで行うか伺います。

介護サービスの利用見込量や被保険者の推移など、将来的な状況等踏まえながら、適正な算定に努めます。



進藤 優子 議員

食品ロス削減への取り組みについて

食品ロス削減、ごみの減量化に向けて、県内一ごみの排出量が多い本市の現状について伺います。①ごみの減量化に向けて、食品ロス削減の取り組みを推進する必要があります。市民により広く食

品ロス削減が浸透するよう、「全国美味しい食べきり運動ネットワーク協議会」への参加や具体的な周知活動の手法を検討していきます。

フードバンクとの連携や「フードボックス」の設置についての見解を伺います。

庁舎内に「フードボックス」を設置している近隣自治体の状況等を調査し、フードバンクとの連携について検討していきます。

消防団の機能強化と地域防災力の充実について

大規模災害に備えた消防団の機能強化と、大規模災害発生に伴って新たな業務や人手が必要になった場合に限り出動する「大規模災害団員」導入について考えを伺います。①大規模災害団員の導入については、消防団、自主防災組織との適切な役割分担が必要不可欠であります。現在、消防団幹部会議で、特定の任務に従事する機能別団員の導入について協議を進めています。

有事の際、装備品を積載し、効率よく活動ができるような消防車両の整備について伺います。②消防車両は、消防施設年次整備計画に基づき更新しており、今年度更新の小型動力ポンプ積載車には、配備されている資機材が積載できるよう整備しているところですが、

心肺蘇生教育の推進及び危機管理体制の整備について

学校における児童生徒への心肺蘇生教育、教職員へのAED講習の現状と、今後の取り組みについて伺います。

心肺蘇生教育は、小学校4校と全ての中学校で実施しており、AED講習は、教職員、小学校2校、全ての中学校で行っています。発達段階に応じ、より実践的な取り組みを推進します。



三浦 一郎 議員

新農業委員会法からなぜ逃げる
新法の基本趣旨は、●農業委員定数は農地面積と農家数等を基本に定める。●農地利用最適化推進委員も兼務し、各委員の担当地区を定めなければならない。●2点です。これまでの答弁では説明の合理性と法の趣旨から外れています。加えて農地利用流動化の進む船越地区からはその必要性が高いのに委員が任命されなかったことで、現委員からは、「他地区では土地勘もなく現実的ではない。なぜ船越地区からだけ委員を選出しないのか。せめて他地区選出の委員と共に活動するの配置は考えられないのか。」との声があります。農政の転換期に、この先2年半近くも差別扱いの他に、補助的委員もないことで状況変化に遅れるほか、地域感情やオール男鹿体制づくりからもマイナスです。最小限の対策として、農業委員会サポーター委員を船越地区に配置することが必要だと思ふが市の考えを伺います。

新制度では担当地区を定めず、委員相互の連携で広域的に業務を行っています。農地利用最適化の事務については農地条件の多様性から、負担が過重になることも考えられるため、市内全域を一つの区域と捉え、広域的活動を行っています。19人の農業委員によって解決すべき事なので、補助する者の設置は考えていません。

イベント業務の時間外労働対応は
休日のイベント業務にかかるとの十分な事前協議と合意が必要であり、また、振替休日は実行日以前の指定が原則です。現時点での問題点と今後の対応について伺います。

平日は時差出勤制度を活用し、長時間労働の抑制と時間外勤務の縮減に努めています。振替休日は原則、時間外手当を完全支給しているため職員は休日数が減少している状況です。有給休暇取得日数や時間外勤務時間数に大きな差異がないことから、総労働時間の短縮が進んでいないものです。振替休日指定の際は希望を十分考慮し、振替休日に対する庁内意識の高揚を図ります。心身ともに健全であってこそ、質の高い行政サービスの提供に繋がるものと考えます。



佐藤 巳次郎 議員

こみの減量化と有料化を問う
市で取り組もうとしている減量化とリサイクル、資源化について、市広報への掲載や出前講座、生ごみ処理講習会の実施等を徹底周知すること具体化し、減量化の意義を市民に理解してもらうことが重要と考えますが、市は有料化を30年度に実施する計画であります。市民の声を聞く前に実施時期を決めていることは有料化ありきであり、実施時期は撤回し、減量化策を市民に理解してもらうことが先決と思うが市長の考えを伺います。

あらゆる機会を捉えて啓発活動を行い、市民への浸透と実践を図ったうえで、進捗状況により導入が効果的と判断すれば、有料化を具体化します。

介護保険料7・7%
引き上げをやめよ！
平成27年度に県内一の介護保険料の引き上げを行い、今回は月額512円アップの7千157円(第5段階の基準額)となります。今回の引き上げ理由を伺います。また、今年度の決算状況と財政調整基金を使って値下げすべきではないかと考えるがどうか。介護保険料の引き上げの要因は、サービス利用の増加により給付費が伸びたこと、高齢化の進展により被保険者全体に占める65歳以上の割合が増加したこと、負担割合の1%引上げが影響していると考えています。

子どもと高齢者へ
低料金の交通制度を
平成28年度決算によれば、バス会社等へ9千511万円の委託料の支出、運賃収入は1日約3万3千円、年間831万円であり、利用乗客数は5万776人で、バス1台に乗客数は約4人という状況で、大変な採算割れです。現在、過疎地での交通手段をどう確保するかで議論され、交通体系や料金のあり方を検討し、地域住民に喜ばれている自治体もあります。市の公共交通の現状と、今後のあり方について伺います。

新しい財源を求めるとすれば使用料改定による料金収入の増しかないと思うがいかがか。
答 将来的に下水道事業の経営を維持するためには、料金改定が避けられないと考えられており、平成29年度決算及び平成30年度の地方交付税が確定した段階で、議会に対応を示したいと考えています。

委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案等と所管の予算案を審査しました。質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

総務

今後の生活バス路線の維持、さらには民間が運営主体となる白タク特区等の研究など、市民の移動手段の確保に係る見解について伺います。
答 平成30年度においては、住民の生活路線としての役割だけでなく、観光やまちづくりの分野と連携した、持続可能な公共交通ネットワークを構築することを目的とした男



三つの常任委員会合同で、複合観光施設建設現場を視察しました。

鹿市地域公共交通網形成計画の策定を予定しています。この計画の策定にあたっては、従来の買い物や通院等を重要視した生活路線の維持と合わせ、地域特性に応じた多様な公共交通サービスの組み合わせのほか、住民の協力を含む関係者の連携等の調査、研究も行う予定であり、これまで以上に総合的な交通網の整備に努めていきます。
質疑 男鹿駅周辺利用基本計画策定業務については、先に示された庁内での業内容が反映されるのか、改めて計画策定を業者委託する理由について伺います。
答 民間に委託することで様々なアイデア、意見等を出していただくことにより、市の考え方にプラスアルファの部分を引き出せるものと考え、委託するものです。

教育厚生

介護保険では所得段階を9段階に区分し保険料を決定しているが、第1段階から

第3段階までの市民税非課税世帯の負担割合が、あまりにも大きいのではないかと。
答 介護保険制度では、介護保険事業に要する費用を公平に負担することで、所得や世帯の状況に応じて保険料を決定しています。世代間、世代内の公平に着目した制度です。
低所得者に対しては、第1段階の保険料を公費により軽減しており、さらに消費税が10%に引上げられた際には、軽減強化により負担割合を下げける方向を固く示されています。
質疑 スクールバスに一般客を乗車できるようにする「混乗化」について市の考えを伺います。
答 現在、児童・生徒数に応じた最低限の台数で運行しており、将来的にも児童・生徒数の減少に合わせて、運行台数を検討していく必要があることから、「混乗化」については考えていません。

産業建設

鳥獣被害防止対策事業費補助金の内容について伺います。
答 鳥獣被害対策実施隊員に対する報酬及び鳥獣被害対策協議会への補助金を予算措置しています。昨年、ツキノワグマ出没への対応が必要であったことを踏まえ、平成29年度より増額しています。
質疑 木造住宅耐震診断補助金について、平成30年度も予算措置されているが、これまでの実績を伺います。
答 木造住宅耐震診断補助金は、昭和56年5月31日以前に建築された木造住宅の耐震診断を行う場合に補助する制度で、実績は平成29年度の1件です。

今後、下水道管の更新事業が必要となりますが、財源がなければ実施不可能で、

陳情

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める陳情
《主な内容》地域別最低賃金を大幅に引き上げること、地域間格差を縮小させるための施策を講じること、中小企業負担を減らすための直接支援として、中小企業とそこで働く労働者の社会保険料負担や税の減免制度を実現することなどを求める。

意見書

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書
可決されましたので、市民会の意見として、政府関係機関へ送付しました。

議案第10号 男鹿市介護保険条例の一部を改正する条例について
 議案第28号 平成30年度男鹿市介護保険特別会計予算について
 議案第39号 教育長の任命について
 議案第40号 教育委員会委員の任命について
 議案第60号 「仮称：男鹿市農業委員会サポート委員」の設置を求める決議

表 決 状 況 (平成30年3月定例会) (○：賛成 ×：反対 退：退席 議：議長)

議案番号	新 生 21					政 和 会				市民の会				新政会		日 本 共 産 党		公 明 党	議決結果		
	土井文彦	笹川圭光	古仲清尚	小松穂積	三浦桂寿	中田謙三	船木金光	船橋金弘	三浦利通	伊藤宗就	高野寛志	米谷勝	船木正博	木元利明	畠山富勝	吉田清孝	三浦一郎	佐藤巳次郎		安田健次郎	進藤優子
議案第10号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	可決
議案第28号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	可決
議案第39号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第40号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第60号	×	×	退	×	×	×	×	×	議	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	否決

※三浦利通議長は採決に加わりません。
 ※議案第60号については、可否同数のため議長の決するところにより否決となりました。
 ※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他の案件については、全会一致で可決及び承認されました。

編集後記

▼この3月定例会が、早いもので議員任期4年の最後の議会となりました。
 ▼4年間の「市議会だより」を振り返ると、「男鹿駅周辺整備計画」に係る見出しが多く、「にぎわいづくり」に新計画、「複合観光施設」に更新なる議論などがありました。また、一般会計予算を修正可決、予算委員会での可決が一転して否決など議会での議論が分かれたこともありました。
 ▼現在は「オガレ」として、7月1日にオープン運びとなりました。多くの方々が買い物に来てくれれば幸いです。
 ▼次に多い見出しが「公金着服事件」に対する重い責任、一般、各特別会計決算不認定となり、翌年は「二年連続で決算不認定」、今年度は「三年連続の決算不認定」〜いまだ解決への道筋見えませんが副題となりました。来年度の決算が認定されるよう、公金着服問題が早期に解決できるよう望むものであります。
 ▼その他の見出しとしては

「議員定数削減2減の18に」また、「菅原市長誕生オール男鹿を訴えて」などがありました。

▼議会広報特別委員会のメンバーは市民から、読みやすさ、分かりやすさ、親しみやすさの『3やすさ』をどう記事に載せ、市民に今の市政の動きがよくわかり、今後の市政はどうあるべきかを市民の側から理解できたと言っていたら最

高ですし、そうなれるよう紙面の充実を念頭にやっていたらと考えています。
 ▼議会だよりが市民との架け橋になるようにと編集にいつも心がけて発行してきました。今後とも、ご愛読ご意見をお寄せください。
 ▼4年間ありがとうございました。

議会広報特別委員会
 委員長 佐藤 巳次郎



議会広報特別委員会

前列左から、三浦利通議長、佐藤巳次郎委員長、進藤優子副委員長
 後列左から、古仲清尚委員、畠山富勝委員、木元利明委員、船橋金弘委員